

令和5年度ボランティア・市民活動支援センター事業評価シート

令和6年3月20日時点 ● V S C 事務局

評価の観点 = A : 計画どおり実施, B : 計画どおりだが多少課題あり, C : 計画どおりだが課題が多く実施が困難, D : 未着手・未実施

事業項目	事業計画	進捗状況, 変更など	評価 (R5)	評価 (R4)	R6年度に向けた改善や取組
I ボランティア・市民活動支援センターの運営					
1. V S C 運営委員会の開催 【1- (1)】	<ul style="list-style-type: none"> ● V S C の業務内容や運営について協議する。 ● 運営委員…大学のすべての学科から各2人を選出する。委員の任期は2年間（令和4年度～5年度）。 ● 運営委員会…委員長が招集して、毎月1回開催する（第3木曜日・1時限）。 ● 協議内容…V S C 運営, 事業計画および実施, 懸案事項などを協議する。 ● 各委員が V S C の活動を役割分担して主体的に活動する。 ● 必要に応じて、学生スタッフも運営委員会に参加して、V S C の運営や活動に対して協議や提案を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業計画どおり実施している。 ● 事業の変更なし。 	A	—	V S C としてボランティア活動を推進する際に、学生の成長や教育の観点を明示できるようにする。 運営委員をはじめ教員側から学生に活動への参加を積極的に呼びかける。
2. V S C 事務局体制の充実・強化 【1- (2)】	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生のボランティア・市民活動のコーディネートなど V S C の事務局体制の充実・強化を図る。 ● 次の職員を V S C 事務局スタッフとして配置する。 センター長1名, ボランティア・コーディネーター2名 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業計画どおり実施している。 ● 事業の変更なし。 	A	—	
3. V S C 臨時窓口の開設 【1- (3)】	<ul style="list-style-type: none"> ● 9号館の常設の V S C 窓口機能を補うため、各学部棟にて臨時窓口を設けて、学生の相談や保険の加入などをすすめる。 ● 時期…4月, 10月 ● 場所…1号館, 5号館, 7号館, 10号館 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業計画どおり実施している。 ● 事業の変更なし。 	A	—	
4. V S C 拠点の運営 【1- (4)】	<ul style="list-style-type: none"> ● V S C スタッフの事務の円滑化や学生スタッフの活動環境など、継続的に活動拠点を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業計画どおり実施している。 ● 事業の変更なし。 	A	—	
5. ボランティア関係団体との連携 【1- (5)】	<ul style="list-style-type: none"> ● V S C 業務や活動を円滑にすすめるために、各種団体との連携を図り、また、関連研修に参加し、コーディネーターのスキルアップをはかる。 ● 連携団体 <ul style="list-style-type: none"> ① 日本ボランティアコーディネーター協会 (JVCA, 東京都新宿区, 会員317人) ② 大学間連携災害ボランティアネットワーク (事務局: 東北学院大学) ③ 日本財団ボランティアセンター ④ 大類地域福祉教育の会 (会長: 大類小 神保校長) との連携 ⑤ 高崎市内大学地域貢献担当者情報交換会の開催 (年4回程度, 4大学持ち回り) ⑥ 高崎市市民活動センター (ソシアス) との連携 ⑦ 群馬県立観音山ファミリーパーク指定管理者「NPO法人KFP友の会」 ⑧ 関東地区大学ボランティアセンターネットワーク ● 研修会・会議参加 <ul style="list-style-type: none"> ① 群馬県内大学・短大等ボランティア担当教職員連絡協議会 (年1回, 主催: 群馬県社協) ② 市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 ③ 災害支援ボランティア関係セミナー ④ ボランティア全国フォーラム (主催: 「広がれボランティアの輪」連絡会議) ⑤ 大学・短大等における学生ボランティア活動支援連絡会 (主催: 東京 V C) ⑥ 大学ボランティアセンター職員セミナー (主催: 日本ボランティアコーディネーター協会) ⑦ 新任コーディネーター基礎研修 ⑧ 若者のボランティア活動参加を促進するプロジェクトチームへの協力 (主催: 群馬県) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業計画どおり実施している。 ● 連携団体を新たに締結 (朝日新聞厚生文化事業団) ● 研修会・会議①は開催未定 	A	—	
6. V S C 外部アドバイザー会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ● 外部の方にアドバイザーとなってもらい、V S C の活動や運営について協議・評価などをしてもらう ● メンバー…施設団体・学校・病院等 = 3人, 中間支援組織 = 2人, 行政 = 2人, 学識経験者 = 1人, 学内関係者 ● 開催 = 年1回 (2月～3月) ● 評価内容…コーディネート状況, 実践内容, 学生支援, 地域貢献など ● 評価内容をホームページ等で公表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施 	A	—	

事業項目	事業計画	進捗状況、変更など	評価 (R5)	評価 (R4)	R6年度に向けた改善や取組
Ⅱ 学生と依頼団体・施設等とのコーディネート					
7. 学生および依頼者との相談・支援 【2- (1)】	<ul style="list-style-type: none"> ●学生については、活動への参加や活動上の悩みなど相談に応じて、学生の所期の目的が達成できるよう支援する。 ●依頼者については、活動内容やアクセス、注意事項などを確認するとともに、学生の活動について相談に応じる。 ●ボランティア・市民活動を依頼する施設・団体の受付・確認について、ホームページからの依頼フォーム、電話、郵便、メールなどにより受け付けるとともに、活動内容を確認する。 ●実施後のフィードバック方法について検討する（受け入れ側の意見を反映させるための取り組みとして） ●群馬県警戒レベル2以上の場合、学外活動は感染症対策本部に活動申請書を提出し、可否の判断を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●学外活動の活動申請書は、コロナ感染症が5月から5類に変更になったため作成の必要なし。 	A	—	ボランティアの依頼を受ける際に、学生への依頼の理由を確認するとともに、学生に対する想いや学生にとっての学び、メリットなどを聴き取るようにする。これらを依頼フォームに記載できるように改善する。
8. 学生の登録、活動のコーディネート 【2- (2)】	<ul style="list-style-type: none"> ●活動申込み時における学生台帳の作成＝登録およびマイブックへの記載 ●サークルなどは団体として登録する ●ボランティア依頼団体への学生の紹介 ●活動日時の調整 ●活動報告の確認 ●リスクマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●事業の変更なし。 	A	—	
9. ガイダンスの実施（年度当初） 【3- (3)】	<ul style="list-style-type: none"> ●VSCの利用方法について学生に周知し、ボランティア・市民活動への参加を促進する。 ●4月上旬の各学部・学科ガイダンスにて実施。 ●ガイダンスでは運営委員より、「VSCマイブック」の活用の説明と、VSC活用方法の動画の紹介をして、詳細は動画を見てもらう。□ ●新入学生には入学式においてVSCのリーフレットを配布するとともに、授業「ボランティア・市民活動論」（担当＝金井）において周知する。 ●実施にあたっては、コロナウイルス感染予防対策本部および大学事務局の実施方針に沿って、各学部・学科で実施方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ほぼ事業計画どおり実施している。 ●リーフレットは入学式ではなく新入生ガイダンスで配付した。 ●各学科により学年別ガイダンスの実施方法が異なることもあるが、VSC運営委員会にて資料やポイントの情報を共有して、必要な案内はできていると思われる。 	B	—	
10. ボランティア活動保険の加入代行 【2- (3)】	<ul style="list-style-type: none"> ●学生のボランティア活動保険への加入の便宜を図るため、VSC窓口にて加入を代行する（高崎市社会福祉協議会との申し合わせ事項）。 ●学生の申込みを適宜まとめて高崎市社協にて加入申込みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●事業の変更なし。 	A	—	
11. マイブックの作成と活用 【3- (2)】	<ul style="list-style-type: none"> ●学生のボランティア・市民活動への参加を促進するために、活動の目的や意義、参加方法、自分自身の活動記録、VSC活用、活動上の注意事項、学生の活動事例、各種様式、スケジュールなどを記載した手引き（通称：マイブック）を作成し、全学生に配布する。 ●作成部数…800部（新1年生分＋予備） ●新入生ガイダンスでこの手帳の概要を説明し、活用方法は動画を確認してもらうようにする。在学生についてもVSCの活用について再確認するとともに、活用方法動画で確認するよう、ガイダンスで伝える。□ ●次年度分を前年度に作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●事業の変更なし。 	A	—	
12. ボランティア活動を取り入れている部活・サークル等の支援 【2- (4)】	<ul style="list-style-type: none"> ●学内のサークルがそれぞれの特技を活かしてボランティア活動に取り組む際に、相談や活動先とのコーディネートを行うなど活動の円滑な実施を支援する。 ●昨年度の実績：和太鼓集団「舞」、猫部など。コロナ禍前は、吹奏楽部、アカペラ部「K-lingen」、フレまち隊ドロップ、などの実績あり。 ●群馬県警戒レベル2以上の場合、学外活動は感染症対策本部に活動申請書を提出し、可否の判断を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●学外活動の活動申請書は、コロナ感染症が5月から5類に変更になったため作成の必要なし。 ●アカペラ部「K-lingen」は廃部 	B	—	
13. 学生ボランティア活動充実度実態調査の継続検討	<ul style="list-style-type: none"> ●昨年度に実施した調査について、経年的に学生のボランティア活動状況や意識などを把握することにより、社会人基礎力や学業への影響を明らかにするため、調査の継続について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●計画どおりには実施できていない。 	C	—	ボランティア活動に参加した学生に対して、課題発見力や協働力など基礎力が身についたか評価を行う。
14. 学生ボランティア・市民活動関係会議への学生の派遣（旅費等の補助） 【4- (1)】	<ul style="list-style-type: none"> ①NPO・ボランティアフェスティバル（年1回、高崎市市民公益活動促進センター主催） ②学生ボランティアフォーラム（年1回、東京） 	<ul style="list-style-type: none"> ●①事業計画どおり実施、②参加希望学生がいれば実施予定 	A	—	

事業項目	事業計画	進捗状況, 変更など	評価 (R5)	評価 (R4)	R6年度に向けた改善や取組
Ⅲ 情報提供・広報活動					
15. VSC紹介リーフレットの作成【3- (1)】	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティア・市民活動支援センターのリーフレットの改訂版を作成し、関係機関・団体に周知する。学内の新入生および教職員にも配布する。 ●配布先…入学式にて新1年生・保護者、ボランティア依頼団体・施設等、オープンキャンパス、など。 ●新年度の当初に配付するため、前年度末に作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●リーフレットは入学式ではなく新入生ガイダンスで配付した。 ●学生向けの情報に絞って昨年度の内容を修正した。写真も最新のものに差し替えた。 ●入学式での配布をガイダンス配布に切替え 	A	—	
16. メルマガの発行【3- (4)】	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティア情報を掲載したVSCメールマガジンを随時発行する。 ●ポータルサイトを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●ポータルサイトの活用を中止し、メーリングリストを活用して学生に一斉配信している。 	A	—	メルマガが読まれているかを把握するとともに、ボランティアに興味をもてるよう言葉遣いなど工夫する。
17. VSC情報検索サイトの運用【3- (7)】	<ul style="list-style-type: none"> ●学生がボランティア活動のアクセスしやすくするために制作した「ボランティア情報検索サイト」(協力: 医療情報学科・坂本ゼミ)について、引き続き坂本ゼミに運用サポートをお願いし、運用を継続する。VSCではこのサイトについてさらに学生への周知をすすめ、利用を促す。 ●将来的には、登録内容のデータベース化につなげ、事務効率化をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●事業の変更なし。 	A	—	
18. ボランティア通信の発行【3- (5)】	<ul style="list-style-type: none"> ●学生のボランティア・市民活動への参加状況やVSCの運営について、ニュースを発行し、学内の学生・教職員に周知する。 ●随時発行する。 ●掲載内容…ボランティアに関する情報、募集中の活動紹介など ●編集は、VSCおよび広報紙作成に関心のある学生に協力を依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●事業の変更なし。 	A	—	
19. 学生の情報収集の支援【3- (8)】	<ul style="list-style-type: none"> ●学内(屋外)の掲示板にボランティア情報を掲示する。 ●全国的なボランティア団体の情報誌や活動を案内するパンフレットなどを配架して、活動への関心を高めるとともに情報へアクセスしやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●事業の変更なし。 	A	—	
20. ホームページ・ブログの活用【3- (6)】	<ul style="list-style-type: none"> ●大学ホームページにて、全学的に関係するVSCおよびボランティア活動の情報やお知らせを掲載する。 ●ブログサイトにて、VSCが関与したボランティア活動や学生スタッフ、ボランティア団体の活動を随時掲載して、本学のボランティア活動の取り組みを広く周知する。 ●ボランティア依頼者用にGoogleフォームによるボランティア申込みフォームを設定して、迅速な依頼と連絡調整の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●事業の変更なし。 	A	—	
21. オープンキャンパスにおける高校生向けPR活動【4- (1)】	<ul style="list-style-type: none"> ●オープンキャンパスに参加する高校生などにVSCを見学してもらい、本学への関心を高める。 ●学生スタッフが常駐して活動の紹介や見学を案内するとともに、高校生と交流する場面を設定するなど学生への関心も高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●事業の変更なし。 	A	—	
22. SNSの活用検討【3- (6)】	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページよりも即時性や情報交流の効果が高いSNSの活用を検討する。 ●大学公式Twitterを活用してVSCの情報を発信する。 ●YouTubeを活用してVSCの利用案内などを発信する。 ●他大学の運用方針などの情報収集を行い、TwitterやFacebookの開設を目指す。 ●学生スタッフ、わたりばが活用しているTwitterやInstagramをサポートする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●年度途中から、大学の公式SNS(X, Instagram)を活用してVSCの情報を発信している。 	A	—	
Ⅳ 学生スタッフとの協働活動					
23. 学生スタッフとの連携【4- (1)】	<ul style="list-style-type: none"> ●学生が学生の立場でボランティア活動への参加を支援するVSC学生スタッフを組織し活動を支援する。 ●学生スタッフ会議に出席してアドバイスするとともに、会議内容について随時確認しながら連携する。 ●必要に応じてVSC運営委員会に学生スタッフが参加して報告や提案を行う。 ●会議や活動を支援するため、専用のパソコンを貸し出しする。 ●学生ホールに会議・作業スペースを確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●事業の変更なし。 	A	—	学生スタッフが一般学生にボランティアの魅力や関心を高めるために、自ら発信する機会や活動を促進する。
24. 学生スタッフ主事業の支援【4- (2)】	<ul style="list-style-type: none"> ●所属している学生がさまざまな学生スタッフ主催事業を考え、実現できるよう、サポートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●事業の変更なし。 	A	—	

事業項目	事業計画	進捗状況, 変更など	評価 (R5)	評価 (R4)	R6年度に向けた改善や取組
25. 学生スタッフ研修 【4- (2)】	<ul style="list-style-type: none"> ①合宿 <ul style="list-style-type: none"> ●学生スタッフに必要なスキルを取得するため、研修を実施する。内容については、コーディネーターと学生の話合いにより決定する。 ②OJTの実施 <ul style="list-style-type: none"> ●VSC学生スタッフの活動の中で、企画力や会議をまとめる能力など、研修を必要とする分野について訓練する。 ●OJTとして活動を行いながら、随時研修を実施する。 ●他大学の学生スタッフとの交流や研修などにも取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①事業計画どおり実施している。 ②実施していない。 	A	—	
26. 学生スタッフボランティア相談窓口の開設	<ul style="list-style-type: none"> ●学生スタッフが主体となった相談窓口を開設し、活動上の的確な情報提供や不安の解消、円滑な活動のスタートなどを図る。 ●相談の場所や回数、内容などについては検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現在までには実施していない。 	C	—	
V 学生プロジェクトの支援					
27. 災害復興支援ボランティア「わたりば」の支援 【5- (1)】	<ul style="list-style-type: none"> ●東日本大震災を契機として活発化した学生のボランティア活動を支援する。とくに学生の企画を重視してVSCとして取り組みを支援する。 ●宮城県亘理町およびその周辺地域の住民を支援する。 ●これまでの訪問回数は、21回 ●被災地支援の活動への外部助成資金なども活用する。 ●コロナ感染状況を踏まえて、オンラインでの交流や支援も検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●コロナ感染症が5月から5類に変更になったため、オンライン交流から現地での交流に変更 	A	—	能登半島地震など災害ボランティア活動について考える機会を創出する。
28. 赤い羽根共同募学金学内募金の実施 【5- (2)】	<ul style="list-style-type: none"> ●募金ボランティアへの取り組みを通じて、ボランティア活動への参加と理解を図る。 ●群馬県共同募金会高崎市共同募金委員会と協働して学内募金を実施する。 ●学生スタッフによる事前説明会を開催する。 ●大学内他部署の学生リーダーなどの協力も呼びかける。 ●学生協力によるポスター作成及び掲示（サポーター募集・募金協力） ●学内募金の実施…10月中旬～下旬 ●報告会の開催 ●コロナ禍などで学内で呼びかける募金活動が実施困難な場合は、全学的に募金箱を設置するなど工夫して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実施時期は学生の行事予定に合わせ変更したが、事業計画どおり実施している。 ●事業の変更なし。 ●能登半島地震への募金活動も実施している。 	A	—	
29. 専門領域企画型ボランティアの支援 【5- (3)】	<ul style="list-style-type: none"> ①群馬県立小児医療センター「遊びの会」活動の支援 <ul style="list-style-type: none"> ●入院している子どもたちを対象として、子どもたちの経験を増やし、社会性を育てる遊びの活動を実施することにより、学生が楽しみながら、子どもへの対応の仕方、特に患児に対する支援方法について学ぶことを目的とした活動を支援する。 ●感染症対策（抗体価）のチェック、事前研修、小児医療センターとの連絡調整などを担う。 ●活動は月1回、土曜日の14:00～16:00。小児医療センターとの協議により年度初めに活動日を決定する。 ●事前研修を修了した時点で活動学生のグループに加入して、そのグループが参加学生のとりのまとめや企画から準備、実践を行う。 ●コロナ禍などで患児と対面して活動することが困難な場合は、現地に行かなくても交流できる活動に取り組む。 ②農業に関わるボランティア <ul style="list-style-type: none"> ●援農ボランティアを通じて農家の仕事を理解し、専門的な学習とのリンクを自ら考え、将来に活かすことを目的として実施。 ●参加学生を増やし、自主的・継続的な活動ができるよう、支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「遊びの会」は病院側の感染症対策により、現在も休止中 ●そのほかは事業計画どおり実施している。 ●事業の変更なし。 	A	—	学生の専門領域のボランティア活動について、VSCから学習効果やメリットなどをPRする。
30. ベルマーク運動の支援 【5- (4)】	<ul style="list-style-type: none"> ●あいおいニッセイ同和損害保険株式会社が災害復興支援を目的に実施しているベルマーク運動に協力する。 ●学生グループ「べるふあみ」が中心となり、ベルマークのチラシや回収箱を学生食堂・購買部など人が多く集まる場所に設置し、回収を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 	A	—	
31. リサイクル品回収プロジェクトの実施 【5- (5)】	<ul style="list-style-type: none"> ●教員・学生に協力を呼びかけ、リサイクル品を回収する。 ●回収業者を通じて換金し、海外の子ども支援するプロジェクト等へ寄付する。 ●協力団体の選定など実施方法については学生と検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画どおり実施している。 ●コンタクトレンズ空きケースを回収している。 	A	—	

事業項目	事業計画	進捗状況, 変更など	評価 (R5)	評価 (R4)	R6年度に向けた改善や取組
32. ボランティア・プロジェクト・サポート制度による活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ●学生が学生同士または教職員とともに自主的にボランティア活動を行う際の活動経費の助成金制度を創設し, 社会貢献活動・ボランティア活動の推進をはかる。 ●コロナ禍の収束状況を考慮しながら実施に向けて検討する。 	●制度の企画は運営委員会で承認を得ているが, 実施には至っていない。	C	—	
33. コロナ禍でもできる活動の創出【5-(7)】	●学生と協議しながら, コロナ禍でもできるボランティア活動を創出する。	●社会の実情に合わせて進めている	A	—	
VI 災害支援ボランティア事業の実施					
34. 災害復興スタディツアーの実施【6-(1)】	<ul style="list-style-type: none"> ●東日本大震災の被災地及び2019(令和元年)度に起きた台風19号災害で被災した地域を視察することにより, 被災者の現実とその復興について改めて見つめて, 自分にできる地域貢献や専門性を活かした活動を考え, 具体的な地域貢献活動を実行するきっかけをつかむ。被災地での活動から多職種連携教育について学習できるような仕組みを取り入れていく。 ●6月上旬, 1泊2日 ●視察・見学先(予定) = 宮城県亶理町, 丸森町, 石巻市など ●視察・見学内容 = <ul style="list-style-type: none"> ①宮城県亶理町沿岸部の被災地復興状況の視察および語り部による学習 ②宮城県内の被災地復興状況の視察(東日本大震災及び令和元年度台風19号災害) ③学生同士のディスカッション 	●事業計画どおり実施している。	A	—	スタディツアーは, 亶理町など東日本大震災の教訓の学習に特化している。能登半島地震や他の災害について学べることを考えることも大切。
35. 防災講座の協力	<ul style="list-style-type: none"> ●危機管理委員会が主体となり実施する防災活動にVSCとして協力をする。 ●防災を取り入れる授業への協力 	●事業の実施には至っていない。	C	—	VSCの事業というより大学全体で取り組む事業にする必要がある。
36. 被災者支援学生・教職員ボランティア養成講座の実施	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民が本学に避難し学生が住民を支援することを想定した際に, 被災者を支援する知識と技術や地域住民との連携や意向を踏まえた支援方法を習得するためのボランティア養成講座を開講する。 ●災害支援の実践・専門家の協力を得る。 ●災害支援に関心のある教職員にも協力を要請する。 ●受講対象は, 災害支援に関心のある学生および教職員とする。 ●2017年度に実施した内容を踏まえて内容を検討する。 ●大類地域福祉教育の会運営委員の協力を得るなど, 地域住民と協働で実施する。 	●事業の実施には至っていない。	C	—	
VII その他					
37. その他	●学生への食料支援など, 大学またはVSCで必要と判断した事業を随時実施する。	●VSCとして食料支援は実施していない。	C	—	廃止